学びの主体としての教師のニーズに基づく教員研修の評価指標開発

【代表者】　香川奈緒美　島根大学教育学部　准教授

【共同研究者】　深見　俊崇　島根大学教育学部　教授
高橋　泰道　島根県立大学人間文化学部　教授

【研究の目的と内容】

時代の変化が大きくなる中においても、教師は継続的に学び続け、よりよい社会と教育のあり方を追究し、積極的に課題解決する姿勢が強く求められている。一方で、過去の研究結果からは、必ずしも変革の主体となることを希望しない教師の姿が示唆されている。つまり、教育政策によって教師が求められている「学び・変革」と、実際に教師集団が求めている「学び・変革」は質的に異なる可能性がある。

本研究は、教師自身が求める「学び・変革」の特徴について、教育政策において求められているそれらとの相違点に注目して分析する。また、これらの教師の学びのニーズに基づく教員研修に必要不可欠な要素の特定し、教員研修の有意性を評価する指標の開発を行う。

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等】

〇教師の業務として、児童生徒と関わることを重視

教師集団から教師の仕事として最も重要と認識されているのは、「児童生徒との関係を気づくこと」や「児童生徒と関わること」など、直接生徒に対して行う行為や関係性の深化を追求するものであった。反対に、比較的重要視されていないのは、「自らの実践や取り組みを研究論文にまとめること」や「研究論文に書かれていることを批判的に吟味すること」など、研究的視点をより必要とする業務内容であった。

〇自己評価が低いことと、研修ニーズが高いこととの無関係性

興味深いことに、教師の仕事として重視している業務内容を自分が上手に行っているという実感が低い場合でも、その業務に関して必ずしも勉強会や研修から学びたいとは考えていない実態が見えた。ただ、傾向として、教育者としての高い専門性が求められる「児童生徒の学習上のニーズを見定めること」などの業務内容に関しては、教師の仕事として重視されており、自分の能力の現状評価の高低に関わらず、研修ニーズが高い。また、マネジメント（自己の管理と組織全体の管理との両方を含む）に関わる業務に関しては、教師は教師の仕事として重視している一方で、自らの能力に対する評価は比較的低い。しかし、これらの業務について勉強会や研修から学ぶことも求めていない。

〇全体的に学びのニーズは低い

各業務内容に関する勉強会または研修に参加を希望するか否かを問う質問に関しては、ア

ンケート回答者全体のグループ平均が少なくとも参加を「希望する」となった業務内容は全体の 4 分の 1 のみと限定的で、「自分の実践に活用できる適切な先行研究や専門的知見を手に入れること」や「最新の教育理論を把握しつつ、高い専門性をもって教科指導すること」など、教師特有の専門性を必要とする業務内容が多く含まれた。